

はしもととしょかん こどもしんぶん 第220号

ほんのもり

2021年11月



えほん **ソラ日** 『もりのてぶくろ』

八百板洋子／ぶん ナターリヤ・チャルーシナ／え 福音館書店

てぶくろのようなかたちをしたきれいな黄色い葉っぱが1まい、森のこみち^{もり}に落ちていました。どうぶつたちがやってきて、そっと手^てをあてていきます。

発行：相模原市立橋本図書館

TEL：042-770-6600

FAX：042-770-6601

2021年11月発行



「ほんのもり」は、子どもと本をつなぐことを目的とした橋本図書館が発行するこども向けしんぶんです。



あたら はい ほん
 ～新しく買った本のしょうかい～

しょうがっこうちゅうがくねん
 小学校中学年～

しらべるほん

J489 『命の境界線』～保護されるシカと駆除される鹿～

今西乃子／著 浜田一男／写真 合同出版

奈良公園のシカが観光客のマスコットとして大切にされる一方で、田畑を荒らす有害獣として駆除されるシカもいます。保護される命と奪われる命のちがいは……？野生動物の命について考えます。



ていがくねん
 小学校低学年～

えほん ソラE 『おすしやさんにいらっしやい！』

おかだだいすけ／文 遠藤宏／写真 岩崎書店



この写真絵本の舞台はおすしやさんです。海で泳いでいた「金目鯛」「あなご」「いか」が、おすしの「ネタ」になるまでの様子がくわしくのっています。君はどんなネタが好き？

よみもの

J933/アンダ 『ヤーガの走る家』

こうがくねん
 小学校高学年～

ソフィー・アンダーソン／作 長友恵子／訳 小学館

マリнкаは12歳の女の子。おばあちゃんのバーバと一緒に、鳥の足がはえている不思議な家で暮らしています。この家はヤーガと呼ばれ、中にはあの世とこの世をつなぐ「門」があり、バーバは門の番人をしています。マリнкаも将来番人になるよう育てられました。でも本当は……。





11月23日は「てぶくろの日」

えほん **E/S** 『てぶくろがいっぱい』

フローレンス・スロボドキン／文
ルイス・スロボドキン／絵 三原泉／訳 偕成社



ふたごの男の子ネッドとドニーは、ある日赤いてぶくろの片方をなくしてしまいます。すると、近所の人たちが次々に落とす物の赤いてぶくろを届けてくれるようになりました。そこで、ネッドはいいことを思いつきます。

えほん **E/S** 『ミトン』

ジャンナ・ジー・ヴィッテンゾン／さく
レオニード・シュワルツマン／え
はっとりみすず／ほんあん 河出書房新社



犬がほしくてしかたがないアーニャ。でもママは大はんだい。がっかりしたアーニャが赤いミトンであそんでいると、ふしぎなことに、ミトンはいつのまにか赤い子犬になっていました。

えほん **オレE/紫** 『てぶくろ』

エウゲーニー・M・ラチョフ／え うちだりさこ／やく 福音館書店



雪の中、おじいさんが落としたりてぶくろに、次々とやってきた森の動物たちが住みはじめます。

ウクライナ民話から生まれた絵本『てぶくろ』。日本では1965年から読み継がれています。

かみしばい **C** 『てぶくろをかいに』

新美南吉／原作 堀尾青史／脚本
二俣英五郎／絵 童心社





てぶくろで作ってみよう！

しらべるほん J59 『^{じつぶつだい}実物大てぶくろ^{にんぎょう}人形』 世界文化社

しらべるほん J59 『てぶくろ人形パーティー』
長縄泰子／作 中村文子／絵 童心社

LC/015.8 『^{かい}きいてきいて・おはなし会』
藤田浩子／編著 近藤理恵／絵 一声社



「てぶくろの日」の由来

1981年、^{ねん}寒い冬^{ふゆ}がせまり手袋^{てぶくろ}が必要^{ひつよう}になるこの季節^{きせつ}に、
日本手袋工業組合^{にほんてぶくろこうぎょうくみあい}が制定^{せいせい}しました。

参照：J38 『^{にち}365日ものしり百科^{ひゅっか} 11月』 谷川健一／監修 日本図書センター

今月のイベントのお知らせ

★秋^{あき}の読書週間^{どくしょしゅうかん}イベント「こどものほんでしりとりにゲーム」^{かいさいちゆう}開催中！

期間：10月26日（火）～11月10日（水）

「こどものほんのコーナー」にある本のタイトルをつなげて、しりとりを完成させるゲームです。クリアしたら景品^{けいひん}をプレゼント！